

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	1 月	7 日	記入者	石井 宏子
調査者名	石井	北村	中西	橋詰	

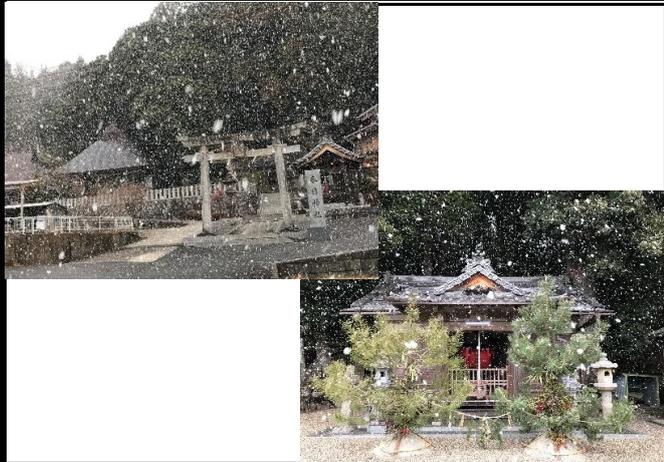
文化財名	染田天神講連歌堂				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input checked="" type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1989年(平成1)3月10日				
所在地	宇陀市室生染田				
所有者 管理者	染田区				
員数	1棟				
時代区分	江戸時代(18世紀中ごろ)				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	県道分岐や自治会駐車場に案内板、境内に染田天神由来の説明板。新しく鮮明。				
公開	春日神社境内自由。連歌堂内は事前に要連絡。				
保存状態	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 連歌堂は2011-12年(平成23-24)に6度目の修理、改修を行った。				
当面の課題	案内板は大きく、目に留まりやすく設置されている。境内も綺麗に手入れされている。連歌堂は10年ほど前、解体修理を行い、屋根の改修、内部の厨子などの彩色改修を行ったので、当面の問題はない。堂内及び冊子にも修理前の写真が掲示、掲載されている。改修後の2013年に奉納連歌会が再開し、今も連歌堂で開催されている。染田天神の由来の説明板はあるが、県指定としての染田天神講連歌堂の説明板はない。				
今後の課題	「連歌の里」などの案内板が設けられ、「中世文学の里」とも称され、復活した連歌会には遠方からの参加・見学も多く、地域活性化に繋がられている。一方、地元の参加は少数とも…。地域の方々や子供たちにも連歌に関心をもつ機会、或いは勉強会などの取り組みを継続して、今後も連歌会と地域と学校、教育委員会などが、広く連携して伝統文化の継承に引き続き、取り組んでいただきたい。				
その他 (由緒など)	1362年に、多田順実(よりさね)が天神御影を感得し、染田に祀ったのが染田天神の始まりと伝わる。正面5.88m、側面6.78m入母屋造。堂内中央に極彩色の厨子を据えている。ここを中心に地侍たちが「東山内天神講」を結び、法楽連歌として天神千句会が1564年まで200年余、続けられた。この講は南北朝期から戦国期の武士団の連帯感強化の役割も果たしたと言われている。なお、染田天神講連歌関係資料は国の重文で奈良国立博物館に寄託中。				
コメント	中世では連歌が文学の中心で、連歌会所も多く造られたが殆ど現存していないとも言われている。そのような中で200年余の長期間、続いた連歌会が廃絶した後も、連歌堂は地元で大切に守られてきたこと、2013年の連歌堂改修を機に連歌会が450年ぶりに復活したということに、まず、感動した。境内に隣接する十輪寺には傷みも見られたが、今も集落の大人たちで「乱杖」が行われている。見学時は集落の人たちの手で造られた正月の門松が飾られていた。近年、切り出す松が少なくなってきたともお聞きしたが、子供たちにも楽しく、関心をもって、このような伝統が次世代にも継承されていくことを願う。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

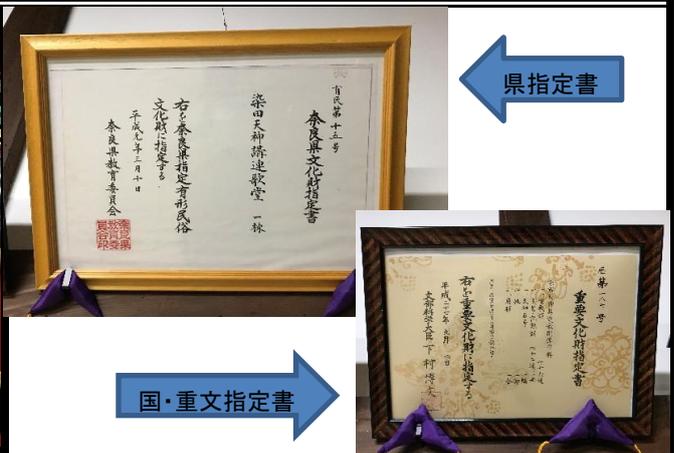
調査日	2021 年	1 月	7 日	記入者	石井 宏子
調査者名	石井	北村	中西	橋詰	

文化財名	染田天神講連歌堂
------	----------

連歌堂のある春日神社	雪降る連歌堂
------------	--------



連歌堂内部・厨子	連歌堂内部 文化財指定書
----------	--------------



案内板・道標	説明板
--------	-----

